

# 滋賀・京都における森林体験学習のプログラムの充実と運営体制について

永井 結子 (環境教育課程)

## 1 はじめに

環境教育の中でも、森林体験学習を含めた森林教育が近年注目されている。農林水産省は森林の中で様々な体験活動などを通じて人々の生活や環境と森林との関係について学ぶことの重要性を述べている。特に森林においては、体験を伴うことで子どもたちの学びが深まると考え、森林教育の中でも森林体験学習が重要だと筆者は考えた。

本研究では、聞き取り調査、資料調査によって、滋賀・京都がどのように運営上の課題を解決しているのか、または解決できていないのかを明らかにしていく。子どもたちにとっても教師にとってもよりよい森林体験学習が実施されるような運営体制を検討することを本研究の目的とする。

## 2 調査方法

### (1)資料調査

滋賀県を対象に行った。平成19年度から平成23年度までに実施された宿泊体験学習での実施プログラムを調査した。実施されている森林体験プログラムの内容や、新しく加えられたプログラムについて考察した。

### (2)聞き取り調査

滋賀県、京都府、京都市各自治体の教育委員会担当課ならびに現場の教職員を対象として行った。なお、積極的に運営上の課題を解決している運営主体を明らかにするために、課題を以下の三点に絞って調査を行った。

①施設整備 ②教員研修 ③現場教員・受け入れ施設・行政部局・教育委員会の連携

## 3 調査結果・考察

### (1)資料調査

森林体験学習のプログラムとしての林業体験には、安全性の問題と設備の問題があるために、専門の知識を持った指導員の存在と安全が確保された施設設備が必要である。多くの小学校が指導員と設備が充実した施設で、林業体験を選択したことは十分に考えられる。また、林業体験とクラフト体験が多く実施されている。それは、子ども達が林業体験で材料が生きていた頃を学び、クラフト体験で廃材活用の重要性の実感できることに意味があると考えられる。

### (2)聞き取り調査

聞き取り調査の結果を以下の表にまとめた。

	滋賀県	京都市	京都府
運営主体	行政部局	教育委員会	各小学校
解決課題	①施設整備②教員研修	①施設整備②教員研修	
解決主体	行政部局	教育委員会	
課題点	③連携:受け入れ施設ー現場教員 ・教師の負担が大きい	③連携:市教委ー現場教員 ・養護教員の不足 ・教師の負担が大きい	①施設整備②教員研修 ③連携:行政部局もしくは教育委員会の介入から

現場教員、受け入れ施設、行政部局、教育委員会のそれぞれが連携を深めることが、今後のよりよい森林体験学習の運営に繋がるだろう。そのためには、現場教員が困っていることや、実際の子どもの様子などを行政部局や教育委員会へ届け、それに対して必要な支援体制を築いていくことが必要だと筆者は考える。